

▲ ▼ 2022 ミス日本「海の日」属安紀奈さん ▼ ▲ ⑬

— 船と港、海に関わる仕事の大切さを学んだ1年 —

早いもので、私のミス日本としての現役活動も残りわずかです。私にとってこの1年は新しい学びがあるたびにもっと海が好きになるような年でした。活動を通してお会いできた海洋業界の皆様、この機関誌『海員』を通して私の活動を知って下さった皆様に心より御礼申し上げます。今月号では地元が大好きな私らしく、地元の港、徳山下松港開港100周年記念イベントを皆様にご紹介しながら1年間を振り返りたいと思います

■次世代エコシップハイドロびんご

2022年11月5日(土)には「水素ワクワクみらい博」も開催されました。これは、将来の水素社会実現に向けて幅広い世代の方に水素エネルギーについて知っていただくために行われました。徳山下松港の発展を支える周南コンビナートには、苛性ソーダ製造会社などが集積しています。周南市では、水素を中心にした新たなまちづくりのために、様々な取り組みを行っています。例えば、公共施設などで純水素型定置用の燃料電池を設置することや、燃料電池自動車の普及促進に向けた補助金対策などです。みらい博には、世界初の水素を燃料とした双胴旅客船「ハイドロびんご」がやってきました。水素と軽油の混焼エンジンが搭載されており、航行時に排出される温室効果ガスが大幅に削減できるエコシップです。近未来の技術を使ったこの船は、周南市にある総合化学メーカーの苛性ソーダ製造時の副生水素を有効活用して徳山下松港で試験走行が行われて完成したというご縁があります。旅客船の側面には「H₂」と書かれたデザインが印象的で、今回のイベント中、周南の方々を乗せて走っている様子は感慨深いものでした。

2日間のイベントを通して、本当に多くの方々が港を訪れ、子供からお年寄りの方まで帆船を見て楽しんでいる様子をうかがいました。地元の方が、「こんな良い港があったなんて知らなかった！」と仰っていて、徳山下松港が地元の方々にとってますます親しみのあるものになりました。私はこれからも、地元の方に徳山下松港や瀬戸内海のことに興味を持ってもらえるような情報を発信していきます。そして、またいつか港イベントができれば、今回以上に多くの方に海の魅力を伝える役割を担っていきたいと思います。

「海員だより」